



新しい校舎で学び
始めた江刈小学校
の児童 4月19日撮影

140周年



歴史と伝統

未来へ紡ぐ 江刈小学校

創 立140周年と校舎落成の記念式典
4月23日、町立江刈小学校創立140周年記念・校舎落成記念式典が同校体育館で約150人が参加し厳粛な雰囲気の中、執り行われました。金沢校長は「特色ある教育活動の歴史を受け継ぎ、かしこく、ゆたかで、たくましい子供に育つよう一丸となって教育活動に取り組んでいきます」と式辞を述べました。同校は、明治9年6月1日に寺田地区の民家を借り開校した後、明治15年に校舎を新築。大正11年に一本松校舎へ移転。昭和38年に現在の場所へ移り、このたび新校舎が完成しました。これまでに3148人が巣立った同校。その特色ある歴史と伝統は、地域の方の思いと木のぬくもりを感じる新しい校舎で、141年目を受け継ぎました。

きる暖房設備や図書館とパソコンルームの機能を併せ持ったメディアセンターなどが特徴になっています。

新たな歴史始まる
4月10日竣工式
町立江刈小学校（金沢卓司校長・児童30人）の校舎改築工事竣工式は関係者ら約60人が参加し、優しい木の香りに包まれた解放感のある同校舎の多目的スペースで行われました。鈴木町長は「ミルクとワインとクリーンエネルギーのまち「くずまき」を随所に感じられる校舎になった。新しい校舎で学び、将来活躍する人になってほしい」と祝辞。児童を代表して村田凜さん（6年）が「大きな夢を持ち、たくさんの思い出を作りたい。みんなで大切に使います」と感謝の言葉を述べました。新校舎は、町産材をふんだんに使用。玄関を入ってすぐに広がる多目的スペースには、学校林の近くで育った樹齢100年を超えるアカマツの丸太の柱が4本。子供の腕では回らないほどの太さで、圧倒的な存在感と安心感を与えています。また、ペレットボイラーや薪ストーブといった自然の暖かみを肌で感じることで



出席者らによる新校舎見学



江刈太鼓「天樹の森」を力強く披露する児童たち



体育館で行われた記念式典の様子



コーヒー牛乳で乾杯する鈴木町長と千葉翼さん



感謝の言葉を伝える村田凜さん



町産材の木の香り漂う多目的スペースでのテープカット